

一般公開

信長居館発掘調査



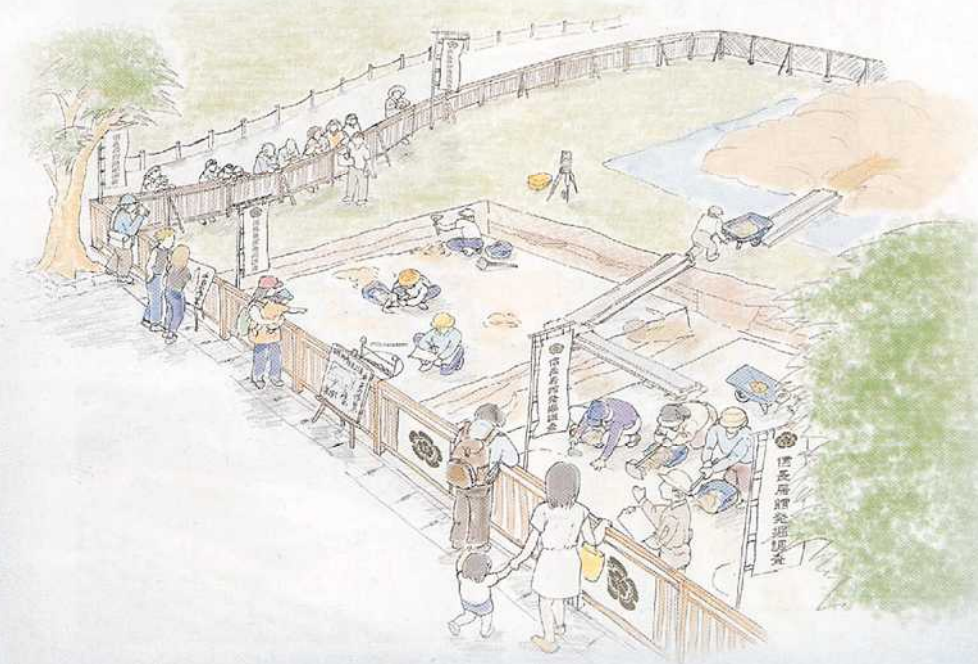
居館入口部分の発掘調査の様子

発掘調査情報を
ホームページでも公開中！
<http://nobunaga-kyokan.jp>

信長の宮殿は非常に高いある山の麓にあり、その山頂に彼の主城があります。驚くべき大きさの加工していない石の壁がそれを取り囲んでいます。

前廊の壁は、金地に中国や日本の物語の絵を描いたもので一面満されていました。

(ルイス・フロイス『日本史』より)



公開期間：2007年6月～9月

調査時間：9：00～16：00

夏休み期間中は土・日も公開します

期間	公開日	休止日
6/12～7/20	月一金曜日	土・日・祝日
7/21～8/31	火一日曜日	月曜日
9/1～9/30	月一金曜日	土・日・祝日

※雨天時は調査をお休みします。

問合せ先：岐阜市教育委員会 社会教育室
058-265-4141 (内線6357)



©岐阜市2006

岐阜市教育委員会
(財)岐阜市教育文化振興事業団



信長の岐阜まち発祥440年

信長を感じる 公園穴場スポット

斎藤道三、織田信長ら歴代の岐阜城主が館を構えた岐阜公園、当時の建物配置などは謎に包まれたままですが、公園内をよく観察すると戦国時代の空気を感じられるスポットがいくつもあります。発掘調査の見学とあわせて散策してみませんか。



そうがまえ どんり
総構の土塁

城下町を囲う土塁や堀を総構といいます。岐阜城下町も土塁と堀で囲われていました。今の金華山トンネル脇から金華橋までの堤防は、戦国時代の土塁を利用して造られています。



戦国時代の登山道？

平成9年度の発掘調査で戦国時代の通路が見つかりました。現在の登山道と一直線につながっており、登山道は戦国時代と同じルートだったようです。



復元井戸

平成11年度の発掘調査で見つかった石積み井戸を一度解体し、一部を同じ場所に積み直しました。



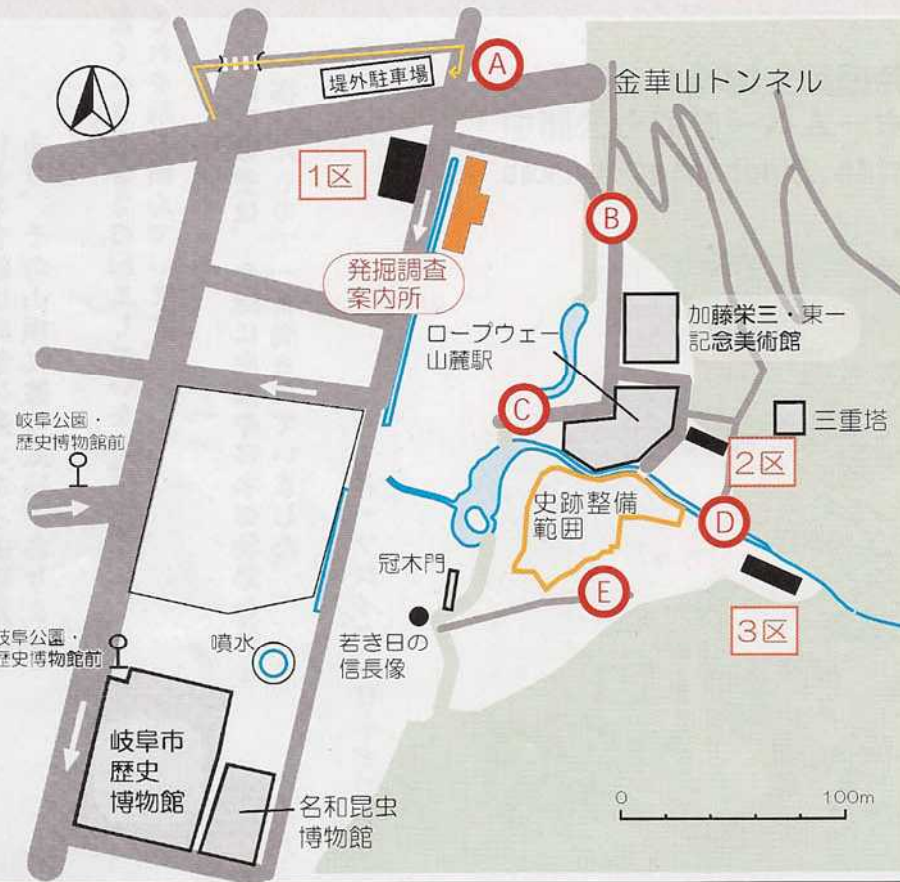
滝と巨石列

裾谷に造られた滝で、信長時代のものという説もあります。その脇には巨石列に似た石材がみられます。



史跡整備範囲

昭和58～62年度の発掘調査でみつかった、信長居館の入口部分を復元整備しています。1560年代としては珍しい構造で、信長の獨創性がうかがわれます。



【巨石列とは？】発掘調査で出土した、戦国時代の大きな板状の石を立て並べたもの。全国的にもあまり例はありません。石材は金華山で採れるチャートです。

平成19年度はこれまでに発掘されたことがない3地点について、どのくらいの深さに信長時代の遺構があるのかなどを調べていきます。

- | | | |
|----------------|----|--|
| 可能
常時
見学 | 1区 | 発掘調査案内所前（6月上旬～7月中旬）
家臣団の屋敷地と考えられる地点 |
| | 2区 | ロープウェイ山麓駅東側（7月下旬～9月下旬）
居館本体の一部など、重要な建物が想定される地点 |
| | 3区 | 裾谷平坦地（10月上旬～12月上旬）
ルイス・フロイスの記述にある[茶の座敷]があった
とする説がある地点 ※日程は天候等により変更する場合があります。 |

岐阜公園のアクセス

バス JR岐阜駅・名鉄岐阜駅からいずれも岐阜バスで長良方面行き乗車（約15分）

「岐阜公園・歴史博物館前」下車すぐ

駐車場 岐阜公園堤外駐車場（1回300円、1時間以内は無料）

